



オリオン座の馬頭星雲

冬を代表する星座、オリオン座には魅力的な天体がたくさんあります。馬の頭のような形をした「馬頭星雲」もその一つです。印象的な形のこの天体は、今では背後の星雲の光を、馬の首の形をした「暗黒星雲」が遮っている様子であると分っています。

この星雲を最初に観測したのは、ウィリアム・ハーシェルで1811年のことです。最初の写真は、アメリカの女性天文学者 W.P. フレミング (1857-1911) によって撮られました。その後、多くの観測がなされ、だれかが名づけたわけでもなく、この形は、「馬の頭」と呼ばれます。英語の "The Horsehead" はこの部分の固有名称として扱われるほど有名です。当時は、星も星雲もない部分がたまたま馬の頭の形に見えるだけの珍しい部分と思われていました。しかし、1913年 E.E.バーナード (1857-1923) は、周囲と「馬の首」との間の星の分布や星雲の形の不自然さから、ここには何か「黒い物質」があるのではないかと気づきます。

バーナードが世を去った1950年代になって、漆黒に見える星雲の中にも若い星が見つかり、ここには、星の材料となる物質が大量にあることが分かりました。今では、冬の星空の中でも代表的な星の「ゆりかご」として知られています。



ハワイにあるカナダ-フランスハワイ望遠鏡による馬頭星雲の姿
Credit and Copyright: Jean-Charles Cuillandre (CFHT),
Hawaiian Starlight, CFHT